# ゴトゴトシネマ通信

バックナンバーはHPまで

vol.10
発行：2018年7月28日

●今回の上映作品について

## 「被ばく牛と生きる」

これまでもフェイスブック他で語ってきましたが、ゴトゴトシネマファミリーは福島第一原発の事故がきっかけで高知にUターンしました。当事は千葉県一宮町、サーフィンのオリンピック大会も開かれる海辺ののどかな町に居住し、広めの畑も借り、通勤は少々遠かったですが、都市と田舎を行き来するメリハリのきいた生活を営んでいました。

福島第一原発が爆発した際、とっさにパソコンを開きグーグルマップに定規を当てました。約6cm、実距離に換算すると直線で約250km。まだ行ったことのない福島原発は思いのほか近くにありました。しかも、事故はまったく収束せず次の爆発が起きます。オーガニック食品の団体「大地を守る会」に勤務し、原発の危うさに触れ危機意識をもっていた我々家族は、まず妻と3歳の娘が妻の実家がある東京の西部地域に避難します。これは福島が壊滅的な状態になったとき、パニックになる東京中心部を抜け出して西に逃げるための策。そして、東京の水道水から飲用基準をはるかに超えるキロあたり210ベクレルもの数値が出た3月23日の翌日、妻子を私の実家がある四万十市に避難させました。その後、一宮町近くの畑から基準値超えの農産物が相次いだことから、「ここでは子育てができない」と考え、高知へのUターンを決断しました。

今だ空にも海にも大量の放射能を放出し続ける福島原発事故について、命の尊厳について、今日は改めて認識をあらたにし、一緒に振り返っていきたいと思います。

愛情を持って肥育される被ばく牛たち。

●今後の上映作品について

## 「さすらいのレコードコレクター」

8月2日@くう食堂（愛媛県四国中央市三島宮川2-2-30）

## 「いしぶみ」

8月21日@自由民権記念館ホール

## 「心と体と」

9月1～2日@メフィストフェレス

## 「獄友」

9月30日@自由民権記念館ホール

先週末の高知上映会で大好評を博した「さすらいのレコードコレクター」。来週、ゴトゴト初の越境上映となります。四国中央市のくう食堂は、高知から1時間ちょっとでいけますので、見逃した方はぜひご参加ください。

例年娘のよさこいで忙しく上映をお休みしていた8月は、先日「万引き家族」でカンヌ映画祭・最優秀賞に選ばれた是枝裕和監督の2015年の作品「いしぶみ」を上映します。女優・綾瀬はるかさんの朗読劇を中心に、追跡ルポも織り交ぜ原爆・戦争の悲劇を伝える秀作。「本作を貫いているのは、悲しみではなく怒りです」。と語る是枝監督渾身の演出を、ぜひご体験ください。

そして9月、なんとゴトゴトシネマ初のフィクション映画となる「心と体と」の上映です。「鹿になり戯れる同じ夢」を見ていたことがきっかけで、少しずつ気持ちを通わせていく不器用な中年男女の誠実で初々しいラブストーリー。もうだいぶ前から視聴して上映を決めていた本作品。ゴトゴトシネマの新たな展開として、ふさわしくあまりある内容です。ぜひともご期待ください！

最後にご紹介するは、長年冤罪事件を追い続ける金聖雄監督の「獄友（ごくとも）」。「狭山事件」の石川一雄さん、「袴田事件」の袴田巌さんら5人の冤罪被害者が、獄中での出来事や出所後のそれぞれの人生を改めて語る姿を通し、奪われた時間の中で彼らが失ったもの、得たものは何か、そして司法の闇や人間の尊厳とは何かを描き出していきます。全国的に上映が続く話題の新作をぜひご覧ください。

**gotogoto cinema** 上映詳細はチラシ、HP、FBにて

●ゴトシネマヒストリー vol・9

## 世界の日本の通学児童映画コラボ！

土佐山アカデミー関連の移住者たちをメインのお客さんにし、軌道にのりつつあるゴトゴトシネマの土佐山桑尾公民館上映、第4弾で早くも攻めます。以前からその存在を知り、個人的に購入して家族からも絶賛されていた日本の傑作ドキュメンタリー「大草原の少女みゆきちゃん」&当時DVDが販売され、知る人の間でちょっと話題になっていた「世界の果ての通学路」のカップリング上映！

今考えてもナイスな企画だと思います。「ふふふふ、世界と日本の通学児童映画をカップリングさせるなんて、他にどこが企画しますかい？　ゴトゴトシネマしかない！」なんて、思いついた瞬間から自画自賛。はりきってチラシ作り&呼びかけに励みました。

公民館に貼った上映会のPOP。

特に「大草原の少女みゆきちゃん」は、ほとんど誰も知らないテレビドキュメンタリーの傑作。ゴトゴトは、みゆきちゃんの父親で有名なハンターである久保俊治氏の著書「飛撃ち」を読んで知ったのですが、この久保さんが当時小学校に入学したばかりの長女みゆきちゃんを毎日小学校まで歩いて通学させるのです。その距離往復8km、しかも普通の道路でなく、家の裏から続く北海道の原野の中を。

天才熊猟師として、周りからも尊敬され、独特の生き方を貫く久保氏、みゆきちゃんには、「自然の中を歩いて、鳥や動物や樹木が変化する様子を日々感じて欲しい」と語ります。みゆきちゃんは泣きべそを書きながら、雪が降ろうが風が吹こうが毎日毎日、北海道の大自然の中を歩いて学校に通います。父と子が互いに深くコミュニケートし、愛情で結ばれているからこそ成り立つ教育方針です。「大草原の少女みゆきちゃん」は、やはり参加者に深い感動をもたらし、ゴトゴト初期上映の傑作としていまだに語り草になっています。

（つづく／ゴトゴトブログより転載）